

**令和5年度第2回  
函館市学校部活動の地域連携・地域移行等に関する協議会**

日 時	令和5年8月17日（木） 18：30～20：00
場 所	函館市役所 8階 大会議室
出 席 （委員）	佐竹委員，西田委員，長瀬委員，小澤委員，渡辺委員， 塚田委員，菊池委員，五十嵐委員，高橋委員，田上委員， 佐藤委員，古御堂委員，駒野委員（13名）
(アドバイザー)	深見渡島教育局教育支援課長
(講演会 参加者)	スポーツ・文化芸術団体，学校関係者など（36名）
(事務局)	小笠原学校教育部長，金野教育政策推進室長， 櫛田教育政策課長，鈴木主査，蝦名主任主事（5名）
傍聴者	なし

## 1 開会

(事務局)

ただ今から，令和5年度第2回函館市学校部活動の地域連携・地域移行等に関する協議会を開会する。

本協議会は，函館市情報公開条例の規定に基づき，原則，公開して行うこととしているが，本日は，委員以外の方も参加のうえ，講師をお招きし，部活動の地域移行等についてのお話をいただく。本日の協議会は全て公開となるがよろしいか。

<「異議なし」の声>

次に，会議録について，協議会終了後に発言要旨を取りまとめた会議録を作成し，事前に，出席委員に確認のうえ公表するので，御承知願いたい。また，会議の公開と合わせ報道機関によるカメラおよび写真撮影を認めたいがよろしいか。

<「異議なし」の声>

本日の出欠の状況だが，協議会委員13人中，13人の委員の出席となっており，設置要綱第7条第3項の規定により，半数以上の出席により会議が成立していることをお知らせする。

それでは次第に従い協議会を進めるが，本日の会議は講演会のみとなっており，検討を要する議事がないことから，この後も，引き続き事務局で進行する。

## 2 講演

(事務局)

本日の協議会は，北海道教育委員会の「部活動の在り方検討支援アドバイザー派遣支援事業」を活用し，函館市規模の自治体における地域移行の実施体制の構築

や、児童生徒、保護者、教職員を含めた地域住民の理解促進や参画、指導者の人材確保などについて、公益財団法人北海道スポーツ協会クラブアドバイザーの熊耳雅美（くまがみ まさみ）様に御講演いただく。

各協議会委員の所属団体を通じて、関係団体・関係者から学校部活動の地域連携・地域移行等に関心のある方も、多数参加いただいている。

講演に先立ち、協議会委員には第1回協議会で説明した内容と重複するが、函館市の部活動の地域移行等に向けた取り組みの状況について、教育政策課長の楡田から説明したい。

（事務局 教育政策課長）

それでは、函館市の取り組みについて説明する。

函館市では、将来にわたり函館市の子どもたちが運動やスポーツ、文化芸術に継続して親しむことができる環境の整備に向け、学校における部活動の地域連携および地域移行など、今後のあり方について検討するため、協議会を立ち上げたところであり、6月21日に1回目の協議会を開催した。

配付資料を御覧いただきたい。函館市教育委員会としては、部活動の地域移行に向けては様々な課題があることから、地域や学校の実情等に応じて、段階的に地域移行の実現を目指していく考えである。

このため、当面は、学校が主体となる、学校教育の一環としての学校部活動における地域連携の取り組みと、地域が主体となる、社会教育の一環としての地域クラブ活動への地域移行が並存する形になるものと考えており、国が位置付けている令和5年度から7年度までの改革推進期間に、まずは、休日の学校部活動の地域連携や地域移行について検討を進める。

検討する具体的内容としては、地域連携においては、部活動数等の精査、拠点校方式による合同部活動の整備、部活動指導員の任用整備など地域移行については、運営団体・実施主体の整備、運営費等の財源確保、指導者の確保、研修の実施、活動場所の確保などと多岐にわたる内容となる。

そのため、改革推進期間内にすべての競技や種目において休日の地域連携や地域移行を完了することは、極めて難しいものと考えており、令和8年度以降も引き続き取り組んでいく方向としている。

函館市の当面の取り組みについては、地域移行に向け、児童生徒や保護者、教職員、関係団体を対象としたアンケート調査や先進地調査を実施し、この協議会において、それらを踏まえた、函館市としての地域移行に向けた推進計画の検討・協議を進め、次年度令和6年度までの2年間をかけて策定する予定である。

また、学校部活動の地域連携については、部活動指導員の配置や拠点校方式による合同部活動など、できるところから順に取り組む方向で考えている。

(事務局)

それでは講演に入らせていただく。熊耳講師は、根室管内羅臼町において、22年に亘り、中学校教員や総合型地域スポーツクラブのマネージャーを務めたのち、平成30年から、公益財団法人北海道スポーツ協会のクラブアドバイザーとして、総合型地域スポーツクラブをはじめとした、全国、全道の地域クラブ活動の状況、また、部活動の地域移行の動向を把握されている。

今年度、北海道教育委員会の部活動の在り方検討支援アドバイザーとして、全道各地をまわられており、本日は、他地域の状況を御教示いただくとともに、函館市の状況を踏まえた、部活動の地域移行の目指すべき方向性について御助言をいただく。

(熊耳講師)

**<配付資料「地域における望ましい部活動のあり方～部活動から新たな地域クラブ活動へ」に基づき講演>**

主な内容：部活動の位置付け、部活動の課題（本市の状況）、部活動の地域移行（本市の状況、なぜ今必要か）、地域クラブ活動はどんな仕組みがあるのか、他自治体の取り組み事例（登別市、渋谷区、村上市（新潟県））、取り組みの方向性（何から始めるか、子どもたちの声を聞く）

### 3 質疑

(事務局)

それでは質疑に進む。ただいまの熊耳講師の講演を聞き、また、学校部活動の地域連携や地域移行に関して質問があるか。

(質問者1)

紹介いただいた事例のクラブは、一定程度必要なお金を集めて運営しているが、生徒は、上を目指したい子もいれば、楽しみたい子もいる。会費は同じなのかと考える保護者も多いかと思う。渋谷区の事例で、例えばサッカーでは、ちょっと取り組んでみたい子どもには、厳しい会費設定なのかと思ったが、何か解決策があれば教えてほしい。

(熊耳講師)

事例で示した渋谷区のクラブは、様々な種目があり会費設定も様々である。専門性など、かかる経費を明らかにしたうえで、納得のうえ費用を負担してもらうことが必要。サッカーで楽しみたい子どもには、別の受け入れ先が必要になるが、専門的な指導者ではなく安全に活動できる見守りで良いとの視点で考えると、費用も抑えられる。

(質問者2)

函館では合同で部活動を実施する場合、移動に時間とお金がかかる。道内での取り組み事例があれば教えてほしい。

(熊耳講師)

学校部活動に関しては道内ではまだ事例はないが、地域移行で総合型地域スポーツクラブが主体となる場合に、元々所有しているバスを活用する事例はある。また、移動しなくとも練習ができる環境づくりとして、ICTを活用し、平日はオンラインでそれぞれの学校で行い、休日は保護者の協力のもと集まって実施するという事例がある。

今年度から、部活動での生徒の移動にかかる国のモデル事業が道内でも実施されており、今後御紹介できると思う。

(質問者3)

地域移行による持続可能な子どものスポーツ・文化芸術環境の整備の考え方は十分理解しているが、中体連や高体連の大会がある以上、それを目指す子どもたちに休日週一回の受け皿のみでは難しい。また、特に大会引率については、自校にない部活動でも、一人でも自校の生徒が参加する場合には引率が必要となる。

中体連・高体連と地域移行の両立について、また、今の段階での、中体連・高体連のあり方と地域移行のあり方について、何かあればお話しいただきたい。

(熊耳講師)

中体連の事務局が今年度から中学校から道教委に移ったが、道教委と中体連、また、自分の所属している道スポーツ協会など、関係団体との連携はこれからで、今後、協議を進めていくにあたっては道教委が方向性を示す必要があると考えている。

(質問者4)

日本スポーツ協会では、総合型地域スポーツクラブとスポーツ少年団の将来的な融合の構想があると聞いている。全国的に統合が進んでいる地域はあるのか。

(熊耳講師)

色々なパターンがあり、いずれも小規模自治体だが、少年団本部を市町村教委が担っていた場合に、総合型地域スポーツクラブが少年団本部の事務局を担いながら、子どもは総合型地域スポーツクラブの会員になってもらう事例や、学校の改築を機に、施設の有効活用を図るため、それまでスポーツ協会と少年団が担っていた

地域スポーツ振興を，新たに立ち上げた総合型地域スポーツクラブで一緒になって担っていくという事例がある。

(質問者5)

渋谷区や村上市の事例で，地域クラブが活動するなかで，学校での部活動も並存しているのか。学校の部活動に参加しない子どもの受け皿として，地域クラブがあるのか。

また，今の学校部活動は，基本週5日で，目標は中体連やコンクールであり，地域移行していく中で，どれだけ活動できるのか難しいと考えている。

(熊耳講師)

どちらもスタート段階では並存する形。最終的には，地域に移行することを協議しながらクラブ活動を実施している。

渋谷区の事例は，既存の部活動以外にやってみたい活動のニーズを捉えて，地域クラブとして会費を徴収して運営している。地域クラブとしての新しい事例を踏まえ，既存の部活動も地域移行に向けて協議しながら進めていくことになる。

現状の部活動をどうするかとなると，今の活動内容をどのように確保するかという話になるが，同じ競技でも競技志向の子どもと楽しみたい子どもの両方がおり，楽しみたい子どもには，様々な競技を体験できるクラブを用意する方法もある。いずれにしても，地域の特性に応じたやり方を模索する必要がある。

(事務局)

まだ，質問のある方もいるかと思うが，そろそろ質疑を終了する。熊耳様，本日は，お忙しいところ講演を賜り，誠にありがとうございました。

## 4 その他

(事務局)

次回，第3回協議会は，先進地調査の結果報告などを内容として，開催を予定しているが，開催日については，改めて日程調整のうえ御案内する。

## 5 閉会

(事務局)

以上をもって，第2回函館市学校部活動の地域連携・地域移行等に関する協議会を終了する。